

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：名取川における河道内民地伐採の対応について		
水系/河川名：名取川水系名取川	河川分類：大河川	
河川の流域面 939	整備計画流量：2700m ³ /s	セグメント：2-1
事業：維持管理	事業開始年度 令和元年度	
目標設定：なし	段階：D(実施・施工時)	
課題・目的(主な)：流下能力の確保		
工法(主な)：樹木伐採、除根		
配慮事項(主な)：その他		

背景・課題、目標設定

<背景>

名取川の広瀬川合流点より上流部の高水敷は、樹林化による流下阻害や周辺からの視認性が極めて悪いことから、不法投棄等のリスクが高くなっていた。

近年、激甚化・頻発化するようになっている豪雨災害に、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の施策を受け、3か年緊急対策により名取川で樹木伐採を実施するものとした。

<課題>

伐採が必要なエリアについては、官地と民地が混在しており、民地となっているところには土地所有者から承諾を得る等の調整を経て、伐採に当たる必要があった。

実施時期に見舞われたコロナ禍の対応。

<目標>

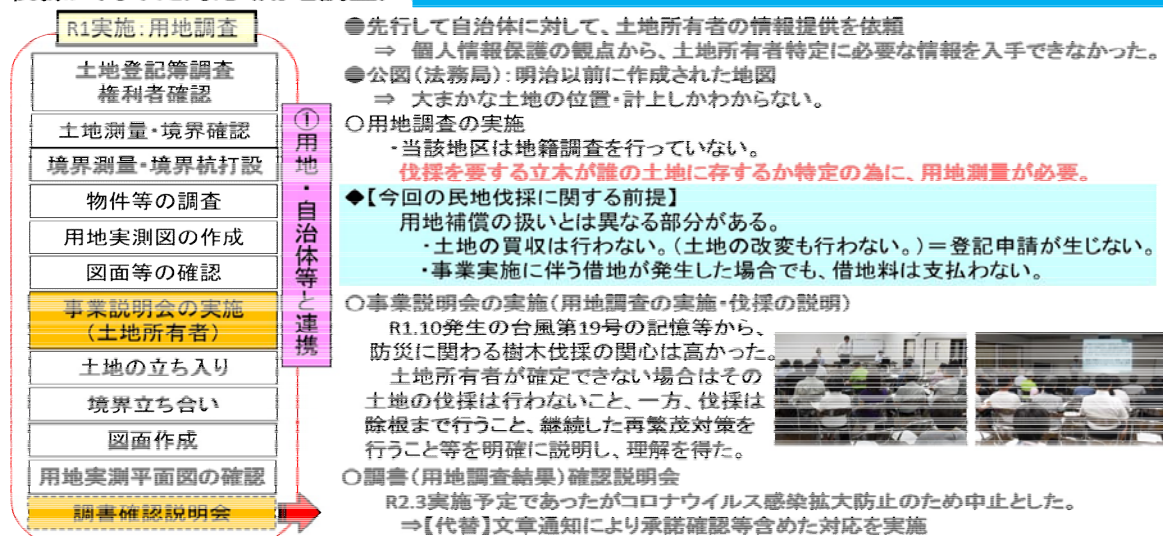
伐採のための用地調査、土地所有者からの承諾



名取川に繁茂していた樹木

取り組み内容・対策例 (1/2)

伐採に向けた対応(用地調査)



取り組み内容・対策例 (2/2)

結果

対象範囲約17ha ⇒ 樹木が確認された対象地について全て伐採の承諾を得た。
追跡困難な土地を含めた約0.7haに関しては、樹木伐採は行わない結果となった。



内訳

- 承諾: 82%
- 承諾が得られない土地: 18%
 - 連絡先不明等: 3%
 - 追跡困難な土地: 15%

承諾書未回収面積

- 保存年限経過による交付不可: 0.2118ha
- 該当者無し: 0.5631ha
- 合計: 0.7749ha

③土地所有者との連携

凡例

- 未回収箇所 (Red box)
- 調査範囲 (Blue box)

R2工事施工

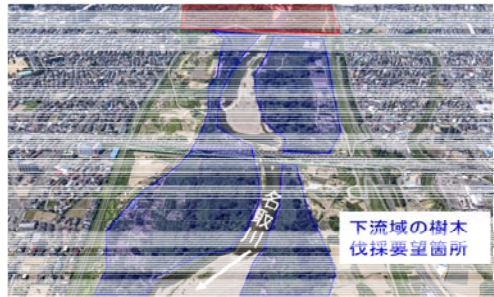
R2: 工事施工を開始
コロナ禍であるため、感染拡大防止の観点から、工事説明会は行わず、チラシ等で情報提供を図った。
一方、沿川住民の事業に対する関心も高いことから、SNSを活用した現場の情報提供に努めている。

※個人情報の特定、法的に間違いない安全施工を意識、要に配慮する等、現場における施工管理の刺激に寄与している。



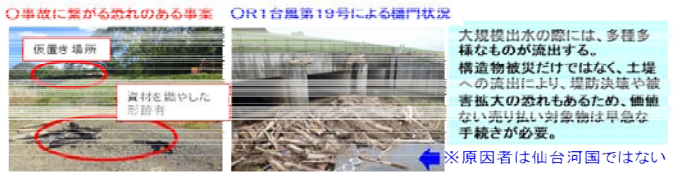
モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

◆伐採の効果のみならず R2施工箇所



- 施工範囲下流にあたる地域から更なる範囲拡大の要望
初めは苦情に近い申し出(なぜ下流側をやらない!)
⇒民地である事、伐採迄のプロセスを丁寧に説明。理解を得られたうえ、協力的な姿勢が見られた。(地元として何をすればよいか等を問われる。)
- 土地利用の相談(自治体等から占用に関する相談等)
- (個人)将来の土地利用を検討され、相談を受けた。
⇒寄付や耕作に関する相談 等

- 【用地調査から見えた課題】追跡が困難な土地に関する補充土地所有者不明に関して、追跡が困難な際に、河川法第22条の行使等を検討する必要がある。
- 速やかな土砂・伐採木の売り払い手続きの実施
掘削土砂: 東北地整“初” - 売り払い実施。
引き渡し後における業者の工程を考慮し、次期出水期迄確実に現地からの全量搬出を完了させる計画が重要。
伐採木は、速やかな売り払い手続きが必要である。
- 継続した取り組みが重要
承諾を得ることが困難と考えられた本事業であるが、近年、頻発する洪水等に備えた3か年緊急対策事業(再繁茂対策含む)は、住民に、丁寧な説明を行えば、概ね理解頂けることが確認された。
引き続き、約束を確実に履行し、河川行政への関心・信頼に繋げ、継続した水害対策を実施していきたい。



◆再繁茂対策
生息する樹木により萌芽、種子による萌芽を検証し、再繁茂対策を実施。
萌芽について
落枝、切り株、地下茎・根からの再生を判断し再繁茂対策を実施



- 再繁茂対策(案)
- ・再伐採
 - ・環状剥皮
 - ・除草剤
 - ・天地返し
 - ・重機踏み荒らし
 - ・地盤高切り下げ
 - ・幼木の引き抜き 等

再繁茂対策のモニタリング(経過観察中)

管内でR2年度に再繁茂対策を実施した箇所において、再繁茂対策効果の検証及び伐採箇所の植生の遷移状況を確認するため、調査を実施しています。

備考